

50 歳代 男性

【既往歴】：閉塞性動脈硬化症、糖尿病、高血圧症

【現病歴】：左V趾の胼胝潰瘍からの感染が悪化。大阪市内の3病院を受診するが、下肢動脈の狭窄もあり、大切断をすすめられていました。

当院では、下肢を温存すべく、チームで一丸となって治療を行いました。

【当科初診時】



左V趾のタコの下に傷ができ、
感染が膝付近まで広がっていました。

【経過】

- ・感染の制御（形成外科による壊死、感染創の除去、皮膚移植術）
- ・下肢血流の改善（放射線科による血管内治療）
- ・全身管理（腎臓内科による全身管理）
- ・リハビリテーション、装具の作成（整形外科）

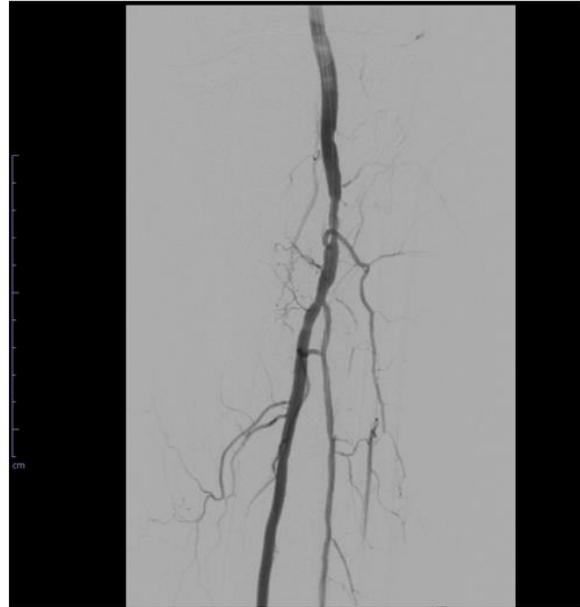
が行われました。

【下肢血管内治療】

治療前



治療後



腓骨動脈管の狭窄と腓骨動脈の閉塞性病変を治療しています。

【皮膚移植後4か月】



残念ながら左ⅢⅣⅤ足趾を失うことになりましたが、
体重を支える足底部分を残すことが出来ました。



【皮膚移植後4か月】

短下肢装具を装着して
杖歩行が可能です。

4ヶ月の入院治療を要しましたが、患肢を温存することが出来ました。
現在は外来にて装具の調整を行っています。
外来へもお一人で通院されています。